

かしわら見張り番

発行所 かしわら見張り番

代表 はまうら佳子

〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502
FAX 072-977-8782



柏原市にイノシシシ屠殺場計画!

なぜ、イノシシ狩りの許可を猟友会に与えない? なぜ、運営はNPO法人柏原ふる里づくりの会なのか?

「文化と歴史のまち」柏原市にイノシシ屠殺場建設のうわさがたついている。

このうわさを聞きつけた人が、大阪府に資料の開示を求めたところ、信じがたい内容の書類が出てきた。

柏原市はすでに屠殺場計画を大阪府を通じて国(近畿農政局)に提出していたのである。

文化と歴史のまちといえながら、市内に屠殺場!?!
市長が「知らなう」というのはなぜ!?!

資料のタイトルは「平成23年度鳥獣被害防止総合対策交付金要望量調査(等)」について。要するに、畑の作物を荒らす動物を駆除するため、交付金の申請について作成した書類である。

今年2月28日付けで「柏原市市民生活部産業振興課長」が大阪府に提出した書類には、「食肉加工処理施設の設計図」や「処理に必要な

冷蔵庫などの備品リスト」まで事細かに作成されている。がその内容は、市民には全く知らされていない。食肉加工処理施設とは、すなわち「屠殺場」のことである。これに対して、ある人が岡本市長に尋ねたところ、「知らない」と回答したというではないか。こういった大きな計画を市長が「知らない」とは考えがたい。



近隣の市町村からイノシシが持ちこまれ柏原は「イノシシのまち」となる!?!

うわさでは「食肉加工施設」は「雁多尾畑」につくられるという。岡本市長は、柏原市を「文化の歴史のまち」と位置づけており、里山や歴史遺産などの整備に億単位の予算をつきこんでいるのに、自然の美しいこのエリアに「屠殺場」

を建設し、柏原市を「イノシシ屠殺のまち」に変えていいのだろうか。そもそもなぜ、柏原市にイノシシ屠殺場が必要なのであろうか。大阪府と柏原市が折半する府の施設という位置づけるので、近隣の市町村からも、駆除のための

イノシシが持ちこまれることを拒めない。おられる問題など、柏原市にと

つてマイナスのイメージが高まっても、全くプラスにはならない。

なら入札にすべきではないか?入札がお好きだとうわさされる市長がなぜ!?!

柏原市では畑を荒らすイノシシの捕獲を、毎年、市の猟友会に依頼している。

春の発情期にイノシシ狩りを行わないと、子どもどもをつつて繁殖していく。これはなぜか?イノシシの数を増やして、処理施設が、原市に必要であることを世間に認めさせたいのであろうか!?!

さらに、おかしいのは施設の維持管理費(光熱費、通信運搬費、消耗品等)は市が負担するという点だ。それがあれば、「NPO法人柏原ふる里づくりの会」は施設利用料を払うだけで、1頭2万円弱と推定される殺処分料の料金も、え、食肉加工・販売して得た利益も入ることになる。儲けたお金が市に入るのであれば理屈がどにあるのだろうか。ますます謎は深まるばかりだ。

「NPO法人柏原ふる里づくりの会」が運営。なぜ、入札もせず決まる!?!

もうひとつ、不思議なことがある。施設の管理が「NPO法人柏原ふる里づくりの会(三宅義雅理事長)」となつている点だ。なぜ、このNPO法人に委託にするのだろうか?もし指定業者を決め

るなら入札にすべきではないか?入札がお好きだとうわさされる市長がなぜ!?!

「猪突猛進」(ちよとつもうしん)

周囲の人のことや状況を考えずに、一つのことに向かって猛烈な勢いで突き進むこと。(大辞林より)



どこかの市長さん、市民のことを考えず、こんなものつくって大丈夫かね~増えすぎたイノシシに囲まれて、突き進むこともけんようになるのかね~その方がええか、おとなしくなつて..(失礼!)